



カスタム加工された両面テープの装着方法

お持ちのデバイスにカスタム加工された両面テープを装着する場合は、このガイドに従って作業を進めて...

作成者: Arthur Shi



はじめに

お持ちのデバイスにカスタム加工された両面テープを装着する場合は、このガイドに従って作業を進めてください。両面テープはスクリーン、バックカバー、バッテリーなどに取り付けます。作業を始める前に、修理ガイドを最後まで読んでください。

注意：デバイスの修理ガイドに接着剤に関する指示がある場合は、そちらの指示に従ってください。

デバイスを分解した後に保証されたIP（保護等級）を保証するには、大規模で専門的な機材を必要とします。このガイドでは一般家庭でできる範囲で最善な結果を得るためのコツや技術を紹介しています。

重要なことです、全てのデバイスや接着剤は同じではありません。ある作業手順が上手くいくか行かないかは対象のデバイスや作業の出来によって変わります。多くの場合、工場生産時ほど上手く密封はできないので、ご自分で修理した後はデバイスを厳しいコンディションにさらさないように気をつけて下さい。

Samsung Galaxy Sシリーズは [こちらのガイド](#) を参照してください。

iPhone全般モデルは [こちらのガイド](#) を代わりに参照してください。

iPad 全般モデルは [こちらのガイド](#) を代わりに参照してください。

通常のTesaテープを使用する場合は [こちらのガイド](#) を代わりに参照してください。

ツール:

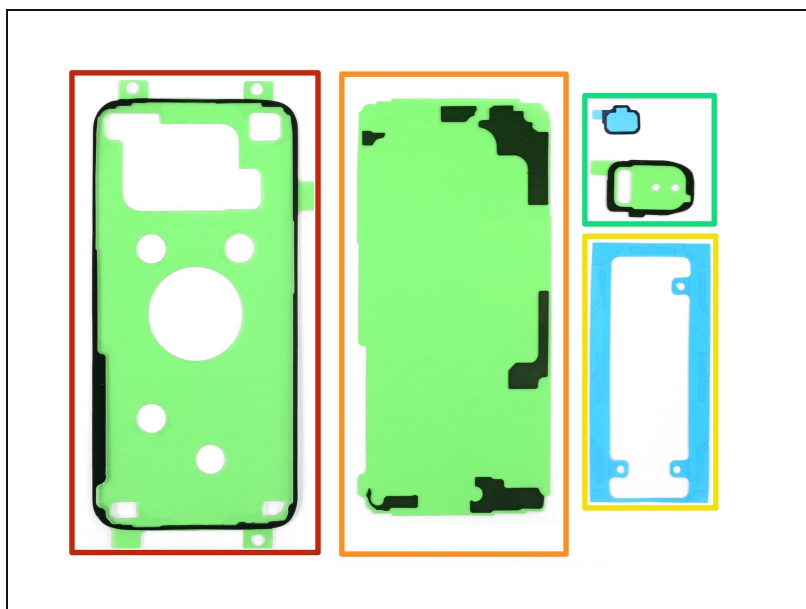
[スパッジャー](#) (1)

[iFixit開口ツール](#) (1)

[ピンセット](#) (1)

[イソプロピルアルコール](#) (1)

手順 1 — 両面テープを確認します



- プレカットされた両面テープを眺めて、各ストリップの目的用途を把握してください。

① ここにあるのは、スマートフォン修理で使われる一般的な両面テープが含まれています。どのように見えるかの例です。

- スクリーンもしくはバックカバー用両面テープ。通常、デバイスの形状をしています。

- バックカバーのサポート用両面テープ。こちらはバックカバー側に押さえ込まれるコンポーネントの形状と合致します。

- バッテリー用両面テープ。通常、デバイスのバッテリーの形によく似た長方形です。

- コンポーネント用両面テープ。これらはカメラや指紋センサのような様々なコンポーネントの形状に合わせて形取られています。

① 通常スクリーンもしくはバックカバーに取り付ける両面テープが一番最後になります。その前に、全ての必要なコンポーネントにストリップを装着しているか確認してください。可能であれば、デバイスを閉じる前に、修理のテストを行ってください。

手順 2 — 表面を準備します



- ① しっかりと接着剤を装着するには、両方の接着面を完全に綺麗な状態にする必要があります。この作業には時間がかかるかもしれませんが、それだけ結果につながります。
- 指やスパッジャー、プラスチックの開口ツールもしくはピンセットを使って、古い接着剤の塊を取り除きます。
 - ⚠ ディスプレイパネルもしくはガラスカバーをクリーニングする場合、ツールが表面を傷つけてしまう恐れがあるため、メタル製ツールは使用しないでください。
- ディスプレイパネルもしくは70%以上の高濃度イソプロピルアルコールを使って、メタル表面に残っている接着剤を取り除きます。糸くずのでないマジッククロスやコーヒーフィルター等で一方方向に向けてワイプします。
- ① イソプロピルアルコールは一般的に電子機器に使用しても安全ですが、特定の発泡性接着剤を溶かしてしまいます。作業の際はご注意ください。
- ① 再組み立ての前に、デバイスから完全にアルコールを蒸発させます。

手順 3 — 貼るべき位置と向きの確認



- ① カスタム加工された両面テープはデバイスの決まった場所에만使えるような形をしています。貼るべき位置を確認する際は、どのように貼るか判断するための切り欠きや表示をよく見て下さい。
 - フレーム内の部品やライナーのプルタブ用の切り抜き
 - 装着位置を示したアライメントマーク
 - ばね接点やカメラのための穴
- ① 両面テープの剥離シートは、大抵の場合片面が無色または透明で、もう片面に色がついています。貼り付ける際はまず無色の剥離シートを剥がしてから粘着面を所定の場所に貼り付けます。
- ① 例を挙げると、背面カバーを取り付ける両面テープの無色の剥離シートがフレーム側になる場合、両面テープはまずフレームに貼って下さい。無色の剥離シートが背面カバー側になる場合は、まず背面カバーに貼ります。
- ① 両面テープが分割されている場合は、形を見てどこに貼り付けるべきなのを確認して、[デバイスのすぐ近くに置きましょう](#)。
- ① ライナーを剥がしている間に向きが分からなくなってしまうための方法として、両面テープを貼るべき場所に置いてから、[一辺をテープで固定して両面テープが所定の場所からずれないようにする](#)という手段もあります。

手順 4 — 接着ストリップのライナーを剥がします



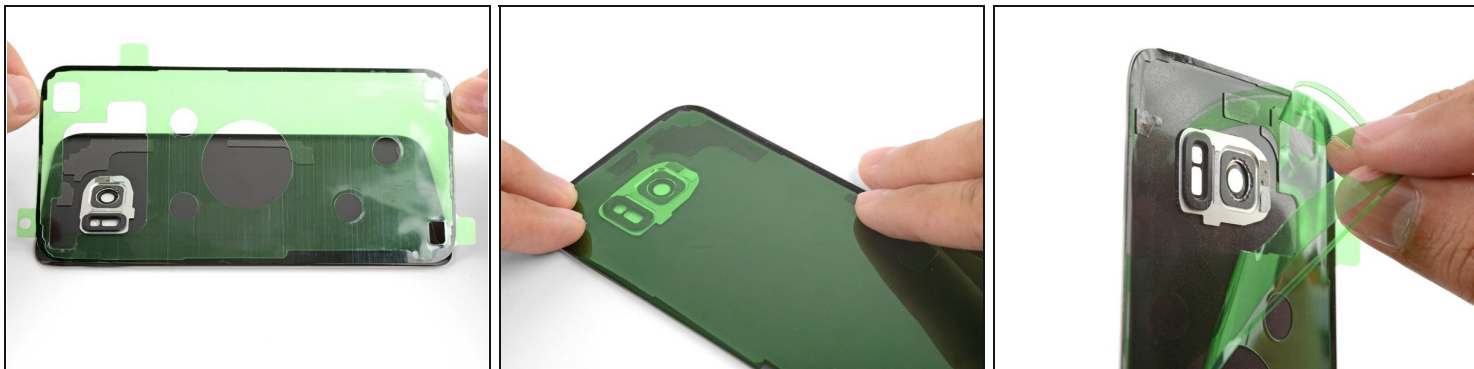
- 両面テープをしっかり装着するための準備が整ったら、無色のライナーを剥がします。
- ① バックカバー、もしくはスクリーンの両面テープを装着する場合、中央部分にある unnecessary 部分も剥がす必要があります。
 - 両側レイヤーの中央部分を、慎重に剥がします。まず U字の切り欠き部分から初めてください。(U字がある場合)
 - 剥がしたら、残りの紙ライナーも全て外して、接着面の下側全体を露出します。

手順 5 — 両面テープの貼り付け



- ⚠ 両面テープを貼り付ける際は十分注意してください。両面テープは粘着力が強く、形が崩れやすいです。一度どこかに触れてしまったら貼り直しはできません。その場合は新しいテープを用意してやり直すことになるでしょう。
- 両面テープの位置を決める際は、位置決め用がデバイスのフレームにある穴と同じ位置にあるか確認しましょう。
- 両面テープによってはフレームの穴や形状に合わせた独特の切り欠きがあることがあります。

手順 6



- 接着面が露出した両面テープのタブを手で摘んで、慎重に接着面の長辺側端をデバイスの端と揃えます。
- 接着面をデバイス表面に取り付けたら、指で表面全体をしっかりと押さえます。
- 両面テープから色のついたライナーを剥がして、反対側の接着面を露出させます。

手順 7



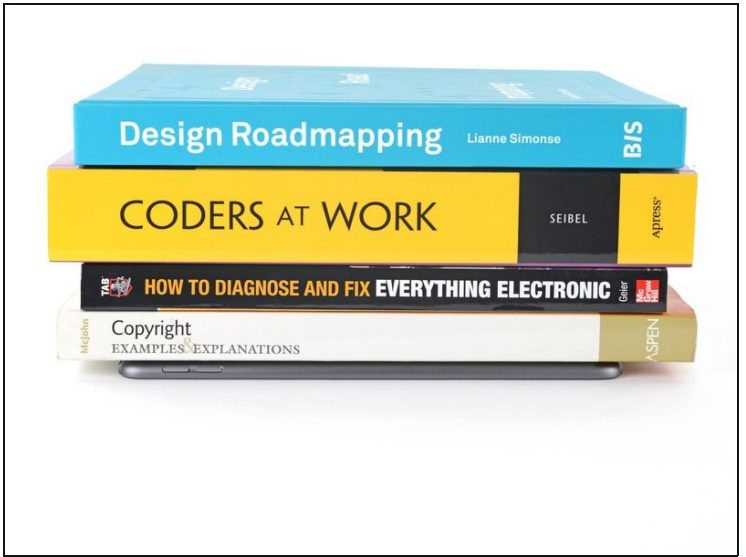
- 接着する部品をデバイスに20～30秒間しっかりと押しつけます。

手順 8 — 接着の補強



- ① 部品を接着したりデバイスを密封したら、接着剤を温めることで接着を補強できます。
 - ① 通常厄介で除去しにくい柔らかい接着剤は、加熱をすると剥がしやすくなります。
 - ① テープのような固い接着剤にはそれほど効果がないかもしれませんが、温めることで接着剤が隙間を埋めやすくなります。
- [ヘアドライヤー](#)や[iOpener](#)や[ヒートガン](#)などで部品やデバイスの接着した部分を軽く温めて下さい。

手順 9



- ① 新しく取り付けたスクリーンや背面カバーの接着を補強したい場合は以下の手順に従って作業して下さい。
- ① 対象のデバイスの表面が平らではない（カメラなどの突起がある）場合は、次の手順に進んで下さい。
- デバイスを平らな場所に置いて、重しとなる物をその上に置いて下さい。大きめの本を何冊か用意すれば大丈夫です。
- 重しを乗せたまま少なくとも数時間放置して、接着剤が落ち着いて固まるようにします。できれば一晩そのままにして下さい。

手順 10 — 平らではない背面カバーをおさえる方法



- ① 最近の携帯電話やタブレット端末はカメラ付近が出っ張っていることが多いです。これらの端末のスクリーンや背面カバーの接着を補強したいなら、このような平らでない表面のことを考える必要があります。
- ① 以下の手順ではデバイス全体に同じように圧力を加える3つの方法について説明していきます。

手順 11



- もしデバイスの箱に背面カバーの突起に合わせた切り欠きが入っているなら、デバイスを平らに置くのに使えます。
- 箱にデバイスを置いて、背面カバー全体に均等に圧力がかかるようにします。
- デバイスの上に重しとなるものを置いて、少なくとも数時間放置し、接着剤が落ち着くのを待ちます。できれば一晩そのままにしてください。

手順 12



- ① カメラの突起と同じ高さになるように、背面の端に沿って何か小さいものを並べる方法もあります。
- デバイスに傷がつかないように、デバイスの端にテープを貼っておきましょう。
 - 硬貨やそれに類するものをデバイスの端に置いて、背面カバーの突起と大体同じ高さになるようにします。
 - 本のような重しになるようなものを硬貨の上に置いて何時間かそのままにします。硬貨の跡がつくかもしれないので、高価な本は使わない方がいいでしょう。

手順 13 — スクリーンバイスクランプを使う方法



- [スクリーンバイスクランプ](#)はスクリーンや背面カバーを固定するのにとても便利です。[こちらのガイドに従って](#)お使いください。

正しく装着できれば、長期間にわたって使用できます。

修理を一度すると、デバイスの耐水性能を完全に回復できないかもしれません。デバイスを液体にさらさないようご注意ください。